

岩盤ボーリング柱状図

調査名 [電子] 「災害対応No.42」 井原地区 平成30年7月豪雨災害に伴う
応急対策業務

事業・工事名

調査目的及び調査対象 砂防 地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.A-2	調査位置	広島市安佐北区白木町井原 神ノ倉山	北緯	34° 35' 14.6472"
発注機関	広島県西部建設事務所			調査期間	平成30年 7月23日～平成30年 8月 6日
調査業者名	主任技師			現場代理人	コア鑑定者
ボーリング責任者					
孔口標高	401.02m	角	180° 上 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総掘進長	13.00m	度	90°	地盤勾配	鉛直 90°
使用機種	東邦地下工機D1-B48型				
エンジン	ヤンマーディゼルNFD-13		ポンプ	東邦地下工機BG-3C	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名 (模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	割れ目の形状	岩級区分	コア採取率 → (%) 最大コア長 c m R Q D [%]	記 事	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	室内試験	削孔速度 (cm/min)	孔径 (mm)	状況	排水量 (L/min)				
														深度 - N 値 図	N 値	深	50 回の貫入量	自沈時の貫入量										
	400.42	0.60	砂混り粘土	茶褐							GL-0.00~0.60mは、表土、砂混り粘土で一部で種物類を含む。																	
1	399.02	2.00	粘土混り砂								GL-0.60~1.30mは、崖錐堆積物。全体的に粘性分を含む。																	
2	398.22	2.80	礫混り砂								GL-2.00~5.08mまで、φ=2~100mm程度の礫と玉石が混在する。礫は丸線であるが、土砂は軽い指圧で変形するほど緩い。																	
3	397.92	3.10	玉石混り土砂								GL-5.08~5.65mは、崩積土主体となる。非常に緩く、コア採取時に落下している。																	
4	395.37	5.65	礫混り砂	茶灰							GL-5.65~6.90mまで、礫と玉石が混在する。																	
5	394.72	6.30	玉石混り土砂								GL-6.90mに、厚さ1cm程度の粘土層を挟む。基盤岩との境界と想定される。																	
6	394.07	6.95	礫混り砂								GL-2.50~3.00m間で全漏水を確認した。また、GL-7.00m付近で少量の漏水を確認した。																	
7	393.02	8.00	風化斑レイ岩	灰褐	w5	h1	D	VI	c	D	GL-6.95m以深は基盤岩。全体に亀裂が発達し、亀裂沿いは強風化し、土砂状を呈す。																	
8	392.62	8.40																										E
9	391.42	9.60	斑レイ岩	灰	w4	C	V	c	CL	GL-11.10~13.00mは、CL級の斑レイ岩。コアは、短柱状主体で採取される。																		
10	391.02	10.00																										D
11	389.92	11.10	斑レイ岩	灰	w4	C	V	c	CL	GL-11.10~13.00mは、CL級の斑レイ岩。コアは、短柱状主体で採取される。																		
12	388.02	13.00																										D